相場動向に賭けずに、確定した利鞘を取る。日経225裁定取引システムトレード

投資資金の元本は常に確保されています。

相場の変動は一切関係ありません。 同スケールに組み上げた2つの商品の価格の歪みを捉え、「安い方で買い、高い方で売る」を、「同時」に「同数」注文するので、取引の仕組み上、投資資金が減らない手法です。

投資資金は、裁定ポジションを取るための証拠金として、証券会社に預けておくための資金です。

相場の上げ下げを予測して、当たって利益が出たり、外れて損失を出すとか、経済危機や災害など外的要因で相場が暴落し損失、などといった概念の投資とは、全く別物の取引手法です。

小さい利幅を取引回数でカバーし、高利回りを実現。

限られた市場内の裁定取引はスピード勝負。利益が確定した取引手法でも、実行できなかったら意味がありません。

このスキームでは、大阪証券取引所のデリバティブ売買システムに直結したコロケーション・エリア内で取引システムを運用し、日経225デリバティブ商品のみを対象とした裁定取引システムとしては、マーケット最速の環境です。

システムが板情報と値の情報を常時監視して、ポジションの発見→計算→発注までを、1/1000秒～2/1,000秒単位で行う、一連の取引を繰り返して利益を積み上げます。

本資料は情報提供を唯一の目的としておりいかなる取引の勧誘をするものではありません。また本資料は信頼できる情報に基づいて作成しておりますが、その確実性が保証されるものではありません。なお上記の諸条件は市場実勢などにより随時変更される場合があります。上記の情報に基づいて取引のご検討ないしご判断には必ず貴社の責任においてリスクを判断されるようお願い申し上げます。弊社は法律、税務等の専門的資格を要求される事項につき、貴社にアドバイスをする立場にありません。従って、貴社において本件取引の内容につき、独立した専門家にご相談されることをお勧め致します。

裁定取引(アービトラージ)とは

■ 裁定取引は、価格差(鞘)を利用して売買し、利益を抜くことから、サヤ取りとも呼ばれます。

同一の価値を持つ2つの商品の、一時的な価格差が生じた際に、安い方で買い、高い方で売ります。
その後、両者の価格差が無くなった時点で、それぞれの反対売買を行うことで利益を獲得します。

「売り」と「買い」で挟まれた利益は、マーケットの上昇や下落に関わらずに確保されており、一度の取引での利益は限定されていますが、
限りなく低リスクで、収益を確定させることができます。

日本市場だと、証券会社などが巨額の資金で行う、日経平均銘柄の現物と先物の裁定取引が一般的です。
東京証券取引所では、「裁定取引に係る現物株式の売買及び現物ポジション」を日々公表しています。

■ 本スキームでは、大阪証券取引所(大証)に上場されている、同じ『日経平均株価指数』を原資産とした、『日経225先物取引(Large)』、
『先物mini×10枚』、『オプション取引を組み合わせた合成先物』 **3種類のデリバティブ商品を組み合わせ、裁定取引のシステムトレード**を
行っています。

■ 本スキームの一番のポイントは、**『投資元本は常に確保されている』**というところです。
資金は、証拠金の残高として預けておくためのもので、売り買い同数しか注文しないので、理論上損失リスクは0です。
証拠金の額に比例して一日で取引できる枚数が増減します。

■ 2009年からシステム運用を開始し、**4年以上、一度も損失を出さずに、粛々と利益を出し続けています。**
バージョンアップを重ね、組合わせ銘柄の増加と、場中での反対売買が可能になり、運用可能資金が増加しました。

本資料は情報提供を唯一の目的としておりいかなる取引の勧誘をするものではありません。また本資料は信頼できる情報に基づいて作成しておりますが、その確実性が保証されるものではありません。なお上記の諸条件は市場実勢などにより随時変更される場合があります。上記の情報に基づいて取引のご検討ないしご判断には必ず貴社の責任においてリスクを判断されるようお願い申し上げます。弊社は法律、税務等の専門的資格を要求される事項につき、貴社にアドバイスをする立場にありません。従って、貴社において本件取引の内容につき、独立した専門家にご相談されることをお勧め致します。